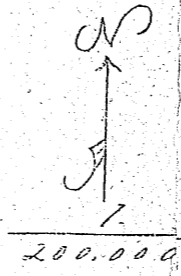
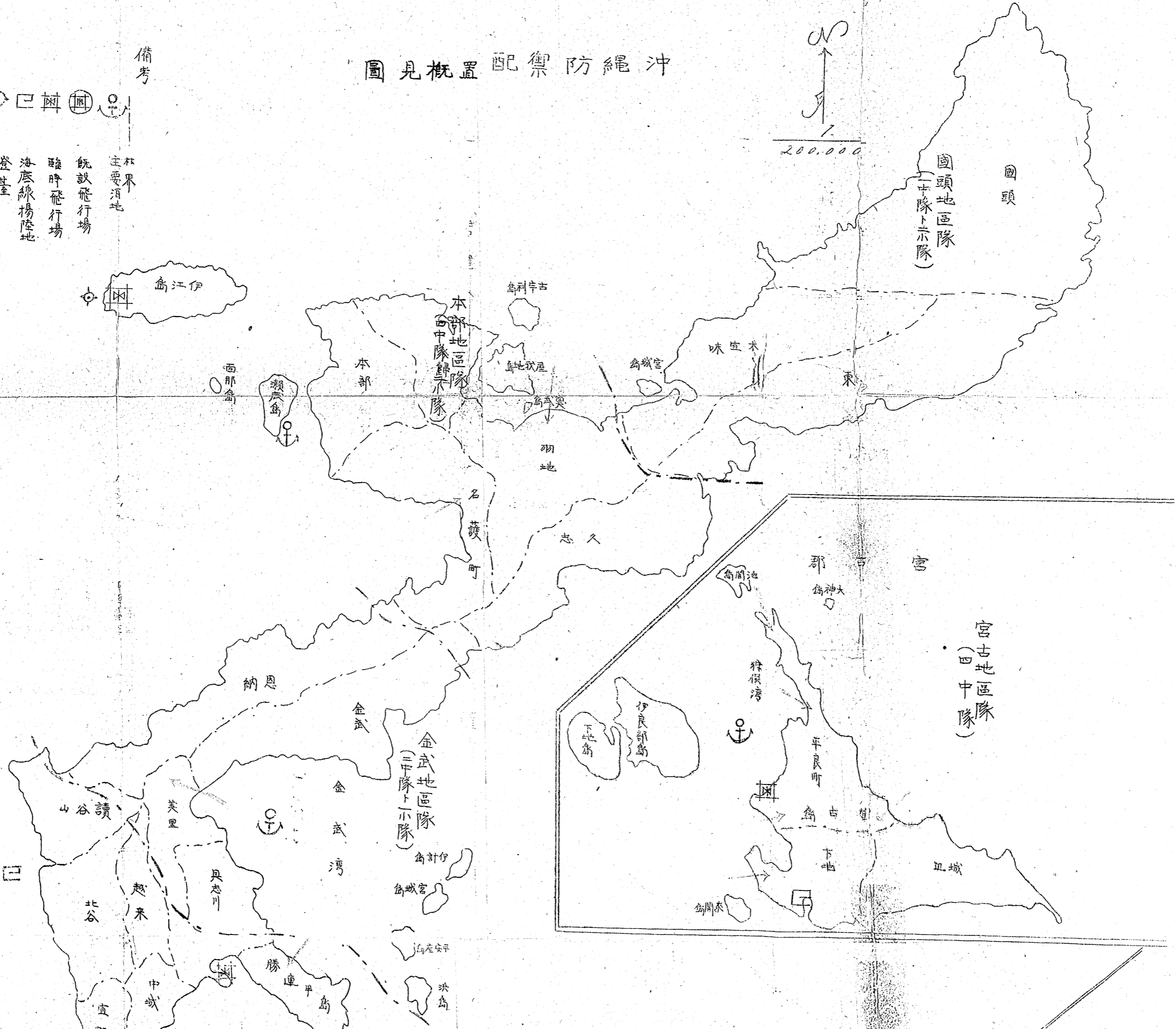


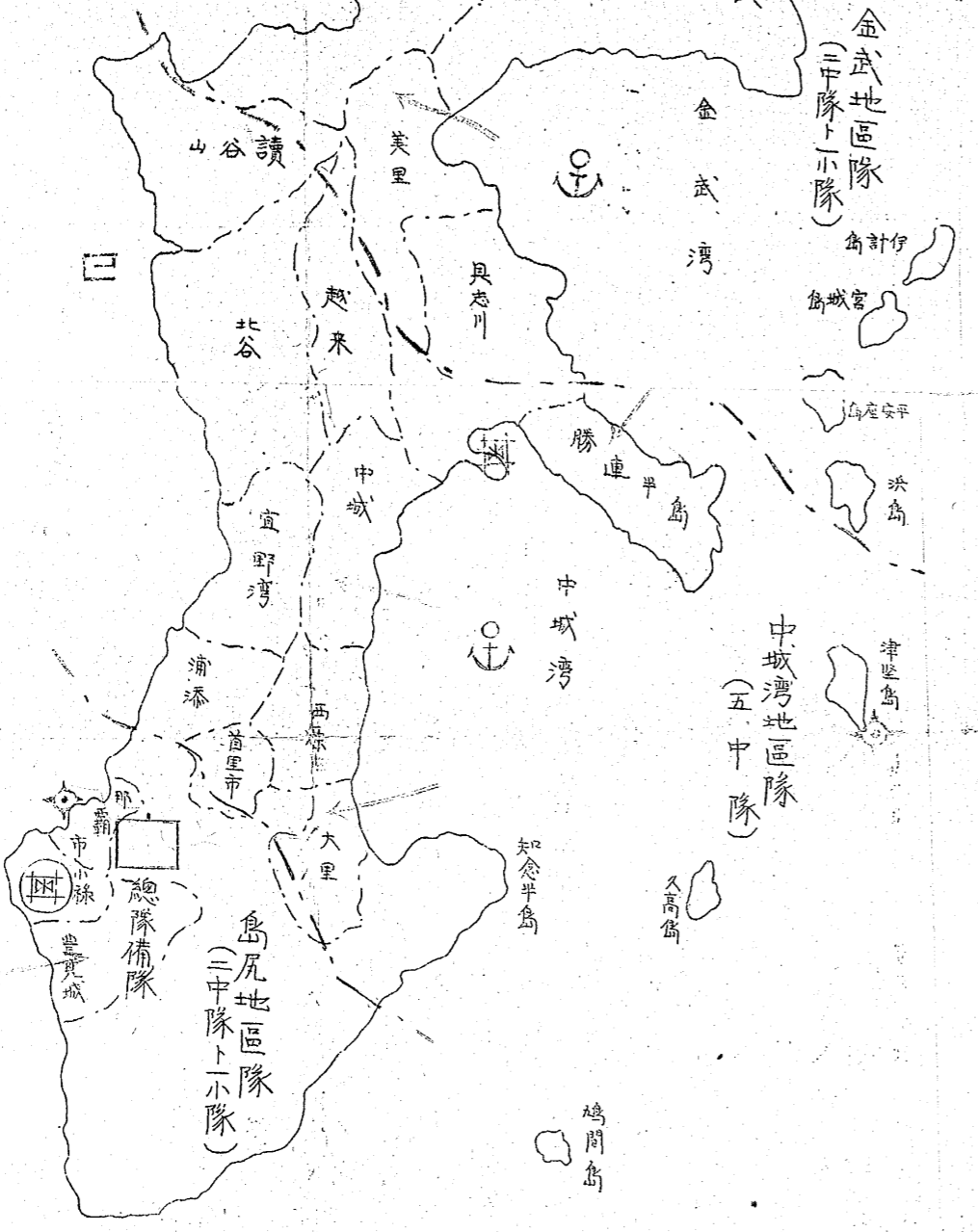
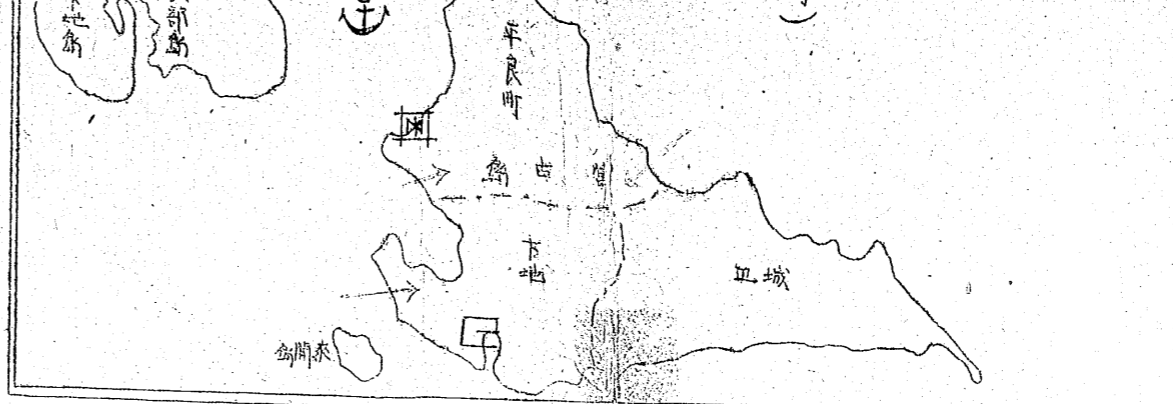
沖繩防禦配置概見圖



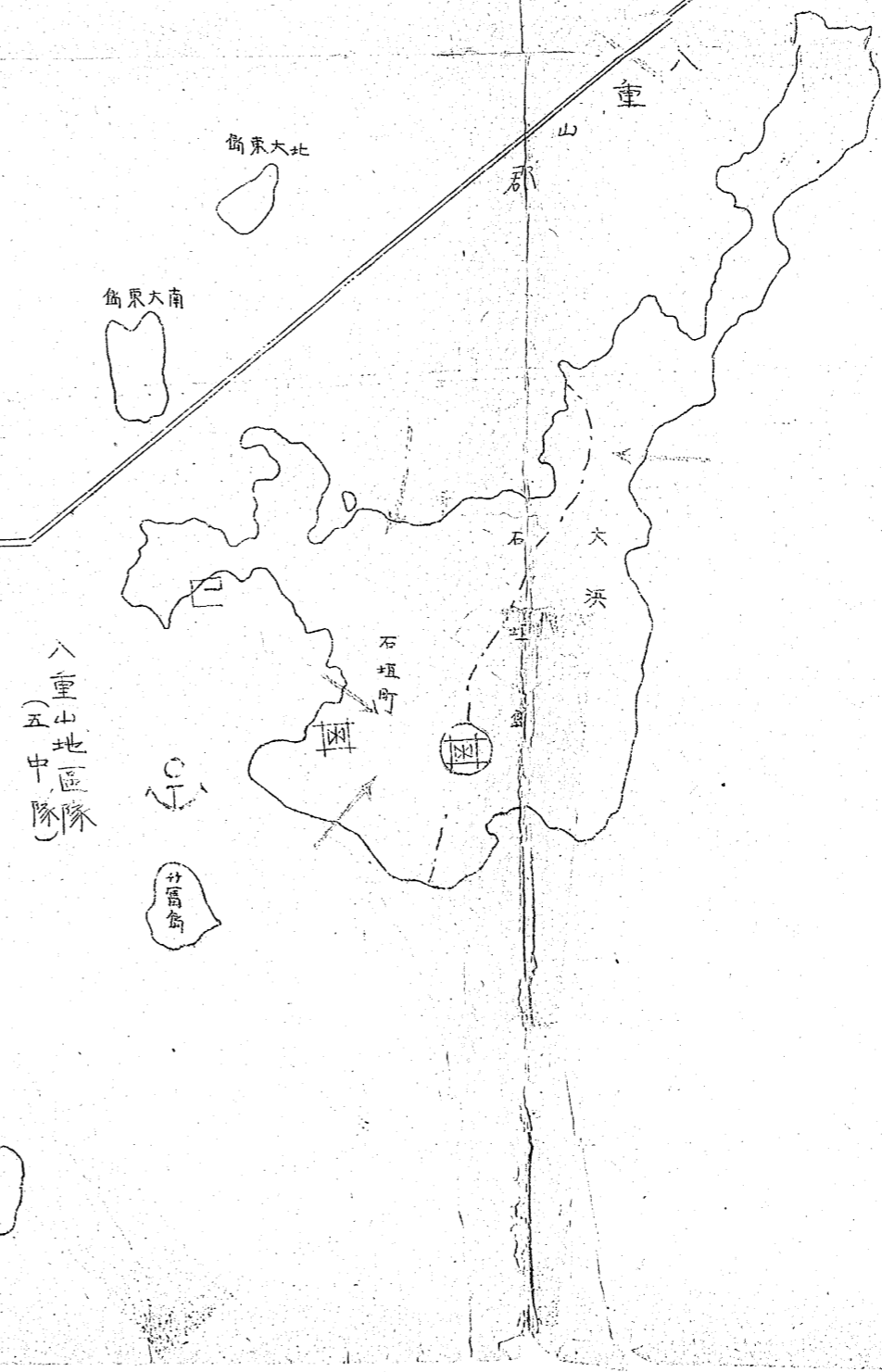
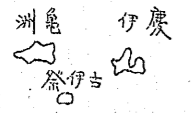
備考

林界
 主要河地
 既設飛行場
 臨時飛行場
 海底線揚陸地
 燈臺
 地區隊境界
 比較的大部隊使用し得上陸矣

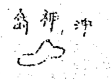




11511



附圖第一



第三防備ニ關スル施設現場狀

其一、小官着任當時ノ情況

民情上記ノ如ク自立自主所信ヲ述ヘテ郷黨ヲ率下ニ以テ事務局ニ當ルノ義舉ニ出テントスルカ如キ犧牲的活動ヲ爲ス人士ハ絶無ト云フヲ憚カラス此重大時局ニ際會シテ地方人士ニヨリ未タ一回ノ時局打開舉民防郷ニ關スル講演集會ノ舉アルヲ聞カス唯々不正ナル私利私慾ニ捉ハレタル黑白政争ニ熱中シ相集リ相争フコトヲ是事トス爲ニ小官當地着任當初ノ如キ前々司令官森及大佐ノ熱心ナル指導ニヨリ昭和七年春國防献品問題ニ關スル支部決議ヲ終リ未タ實行ニ着手スルニ至ラスニテ轉出前司令官是島大佐ハ着任當初ヨリ病氣未ナリレモ病ヲ推シテ徴兵検査

中六月不幸ニシテ死亡爲メニ何等ノ施設ヲ見ス
 部員等カ他地方ノ愛國の義舉日ト共ニ盛ナルヲ
 見之ニ遲ニサル必要ヲ痛感シ愛國の氣運ヲ醸製
 スル爲各地有志ヲ説キ準備工作ヲ進メツ、アル情況
 ニ在リ加フルニ當地ニ於テハ在郷將校極メテ少ナク
 全島ヲ舉テテ六十余名ニ過キス其全部幹部
 候補生出身者(中等學校教育ニ從事スル三名ノ
 士官候補生出身アルモ皆他縣人ニシテ職務ノ關係ト
 縣人排他主義ニ禍セラレ、ラ慮リ活動セス)ニシテ
 活カアルモノハ皆那覇ニ集中シアリ小數ナカラ徵兵
 出身ノ下士官ナキニアラサルモ有爲ノ人物ハ多ク縣外
 海外ニ出テ地方ニ於テハ郷軍分會長又ハ聯合分
 會長スラ多クハ一等兵上等兵若クハ一年志願兵落

第ノ下士官等ニシテ會員ノ掌握統制指導等特
 異ノ地位才能ヲ有スル分會長ヲ戴クニニ地方ニアラ
 サレハ行ハレサルノ状態ナルヲ以テ到底他地方ト
 日ヲ同フニテ談スヘカラス郷軍ヲ通ニテ時局ニ關
 スル對應的地方指導ヲ行ハントスルモ能ハス町
 村ヲ介セントスルモ政争又ハ救濟事業ニアラサ
 レハ風馬牛ニシテ効ナク學校ヲシテ普及セント
 スルモ所謂政黨者流ニ阻マル、コトヲ慮リ活
 動セス(教員ヨリ小使ノ末ニ至ルマテ其移動ハ政
 黨者流ノ喰物トナレリ)勢ニ國家ヲ對照トスル運
 動ハ事大少トナク司令部員自ラ踏ミテ之ニ當ル
 ノ要アリ國防ニ關スル指導施設ノ進捗セサリン
 故ナキニアラステ小官ノ着任セル昭和八年七月

二 於ナル管下一般情勢ハ尤ノ如シ
 一 國頭郡大宜味村ニ於テハ共產黨ノ運動効ヲ奏シ喜如嘉字ノ如キ青年處女ノ大部之ニ加担シ村内ノ萬事殆ト彼等ノ手ニ歸シタリ警察ハ其指導者ト目スヘキ四五名ヲ檢舉シ表面一時其影ヲ淡シタル情況ヲ呈シタルモ敢テ根本的彈壓ヲ加ヘス其真意ハ次項述フル羽地問題ト同様警察威力ノ不足ナル現況ニ於テ萬一一致ノ反抗ニ會ヒテ其面目ヲ失セシコトヲ恐レタル爲ナリ
 二 同郡羽地村ニ於テハ當初名護町ニ設立豫定ノ癩療養所設置カ同町民ノ反對ニ會ヒ秘密裏ニ羽地村ノ一角ニ土地ヲ買收シ用材ヲ運ヒ之カ建設ニ着手セントスルヤ村民ノ激怒スル所トナリ之カ施

設ヲ妨害セラレ其鎮壓ニ向ヘル警官隊ハ同村青年年ノ團隊ニ包圍攻撃手退セラレテ若干名ヲ檢舉セル外手ヲ下ス能ハス村當局ハ設置及對ヲ表明シテ総辭職ヲ行ヒテ完全ニ其自治ヲ放棄シ警察官ハ再ニ手ヲ下スコトヲ憚リ縣亦如何トモスル能ハスレテ事務管掌ヲ置クモ村民ハ其入村ヲ拒ミアル情況ナリシカ若干日後入村ノミハ承認セルモ其業務遂行ハ望ムヘカラサル状態ヲ呈セリ
 三 八重山ニ於テハ小俣教員赤化問題起リ探查ノ結果ハ三四年來温醸セラレタル根底稍深キモノナルコト明トナリ重大ナル問題トナレリ
 四 其他ノ地方ニ於テモ政争ヲ事トシ窮民救濟事

業及風害ニヨル倒壊學校等ノ復旧並ニ各種産業ノ利權問題ト之カ為メニ給セラハ、多額ノ政府補助金獲得ヲ目的トシテ諸種ノ愚劣ナル手段ヲ弄シ横領贈收賄公行シ此利權ヲ巡リテ黑白爭鬪ハ赤熱化シ全ク他ヲ省ミサル状態ニ陥レリ

五、唯八重^山於テハ荒木前大臣第六師團長當時ノ勸説ニ基キ同地聯合公會長山城與常ノ熱心ナル努力ト歴代司令官及部員ノ渡島毎ニ熱烈ナル後援及書面ニヨル激勵等各種機會ニ於ケル熱アル指導ノ結果義勇隊編成ノ機運殆ニ熟セントシツ、アリ同義勇隊ハ遂ニ八年二月共編成ヲ終リ小官渡島ノ際盛大ナル結隊式

ヲ舉クルニ至レリ

而シテ以上ノ情況ニ在リテ縣當局亦事毎ニ軍縮ヲ暗示シ唯々政府ノ補助救援ヲ求メントスル縣民ノ意志ニ迎合シ一途ニ所謂沖繩振興十五年計画(國費ヲ以テ各種産業ノ改良増收ヲ企圖スルモノニシテ當初殆ント教育等精神作興問題ニ及ハス)ニノミ没頭シアリテ進ニテ國家ノ現状ニ應スル縣民ノ認識ヲ向上スル各種指導講演ニ當ルコトヲナサルノミナラス國防獻品問題ノ如キ振興計画ニ借口ニテ其着手ヲ遮リツ、アリタリ

其ニ其後ノ經過

一、國防研究會ノ設立

昭和七年七月小官ノ着任スルヤ部員等ハ先ツ以上ノ情况ヲ報告シ愛國運動ヲ起シテ縣民ノ覺醒ヲ促スハ刻下ノ急務一日モ忽ニスヘカラサルコトヲ具中セルヲ以テ着任第三日ヲ第一回トシテ各地小學校青訓等ノ講演ニ國防ノ必要ナル所以ヲ強調スルノ外管内主要地矣各郡概ネ二個所ニ於テ新任披露ヲ兼ネ不縣下ノ有識者及有力者ヲ會シ他府縣ニ於ケル愛國運動ノ現状ト本縣ノ國防上重要ナル所以ヲ述ヘテ他ニ先ニ愛國國防的團體結成ヲ促シ本島ニ於テハ約一ヶ月先島方面ニ於テハ約二個月後國防研究會ヲ起シ知事ヲ表面ノ會長トシテ活動準備ヲ整ヘ得タリ

二 國防兵器獻納ノ遂行

爾後ノ指導ハ縣民ノ現状ニ鑑ミ有形的ニ大ナル刺戟ヲ與ヘテ愛國的精神ヲ湧起セシムルノ必要ナルニ鑑ミ「國防獻品他ニ遅ルヘカラス」ヲ標語トシテ簡閱矣呼青訓查閱隊後備召集學校教練查閱等ノ機會ニハ勿論特ニ各地ニ講演會ヲ開催シ之ニヨリテ縣民報國ノ熱意ヲ天下ニ問フノ重要ナル意義アル所以ト小國民ニ愛國的精神ヲ植付ル最良ナル手段タルコトヲ力説セリ部員副官等ノ昼夜ヲ分タサル熱烈ナル奮闘ハ全ク部外ノ後援ヲ欠キタルニ關セス今年十一月末迄ニハ縣下殆ント趣旨ヲ徹底セシメ得タルヲ以テ縣當局ヲ促シ縣主催ノ下ニ國防獻品

問題ヲ縣下ニ提案スルコトヲ勸メタルモ知事不在等ノ故ヲ以テ言ヲ左右ニ徒ラニ日ヲ送り年末ニ至リ十二月中旬以後宮古八重山方面ノ青訓查閱ト共ニ國防献品問題ノ講演ニ出張中ナリシ小官昭和八年一月一日那覇ニ歸任セル際知事又恰モ東京ヨリ歸任シアリ(當時知事ハ沖繩振興計画ニ關スル政府補助陳情ノ為メト稱シテ上京任地ニアルコト殆ント稀ナリ)ニ會セルヲ以テ縣下ノ國防献品ニ對スル氣運ハ恰適ノ氣運ニアルヲ以テ直子ニ知事自ラ之ニ當ルコトヲ勸メタルモ表面之ヲ賛シ情ニ之ヲ避ケ確答ヲ與ヘサルマ、再ヒ上京セントセルヲ以テ断然獻品問題ニ着手シ五月聯ト合艦隊來島ノ機ヲ以テ第一回獻品ヲ實行スル

コト、セリ縣下悉く此舉ニ賛成セルモ縣當局ノミハ市町村ニ内訓ヲ下シテ司令部、寄附割當ニ應スヘカラストシ又ハ縣官吏ニハ市町村ヨリ示セル各人寄附額ヨリ著シク小額ノ募集ヲ官吏トシテ行ヒ町村ノ行為ニ妨害ヲ興フル等殆ント想像シ得ヘカラサル各種ノ妨害ヲナセルモ徒ラニ縣民ノ反感ヲ買フノミニシテ獻品問題ニ何等ノ障礙ナク縣當局ノ豫期(一萬圓以下ニアラサレハ縣下ノ實情ハ實現困難ナリトセリ)ニ及シ六萬六千餘圓(當初三萬圓ヲ目途トシ各町村割當總額五萬トセリ)ニ達セルヲ以テ五月海軍報國沖繩號ヲ献納シ縣民ノ愛

國報公心ニ重大ナル刺戟ヲ與ヘタリ 獻納金ハ豫期ノ約ニ倍ニ達セルヲ以テ本縣ノ地位ト防衛施設及本縣民ノ實情トハ本縣直接防備ニ對スル陸軍ノ同情モ亦海軍(獻納式極メテ盛大ナリシ為メ受ケタル)ニ勝ル共劣ルモノニアラサルコトヲ知ラシムル為メ陸軍兵器ヲ獻納シテ沖繩直接防備ニ使用センコトヲ期シ參謀本部課長大島大佐ノ懇切ナル指導ヲヨリ陸軍省ノ同情アル處置ヲ仰キ八年十二月國防兵器庫(獻納陸軍兵器格納用)ニシテ鉄筋ベトン製トシ防濕處置ヲ施シ 獻納兵器ノ外約二千挺ノ小銃ヲ收容スル餘地アリ「アスファルト」防濕壁ヲ有シ約三十萬發ヲ收容

ニ得ル地下彈藥庫等ヲ附屬スルヲ愛國兵器(高射補助具ヲ附シタル重機關銃五挺輕機關銃十挺、小銃百五十挺及重輕機關銃附屬品並ニ空包用銃身若干)ト共ニ獻納シ本島防備ニ一大威力ヲ加フルト共ニ著シク縣民ノ國防思相ニ刺戟ヲ加ヘ且ツ中等學校上級生ニハ之カ使用法ノ教育ヲ要求シ有事ノ日ニ備フルコトニセリ

三 共產主義ノ消解
 國頭郡大宜味村ノ同問題ハ事態容易ナラサルヲ察セラレシヲ以テ恰モ簡閱点呼ニ際會セル為ノ前日夕共產主義ノ最モ深ク發展シアル喜如嘉字ニ於テ青年男女ヲ主体トシテ村民一般ノ大集會ヲ行ハシメテ帝國ノ現状ヨリ

共產主義ノ實質ニ及ヒ詳細解説ヲ加ヘ
 共產主義ヲ帝國ノ國情ニ及スルノミナラス之ニ
 在祖スルハ直子ニ國賊的行爲ナルコトヲ極論
 シ根底的ニ打撃ヲ加ヘ有識者ヲシテ之カ絶
 滅ヲ約セシメ翌日吳呼場及他ノ一ヶ所ニ於テ
 右主旨ニ基キ長時間ニ亘リ講演及懇談ヲ
 行ヒ之ヲ排撃スル爲ニハ健全ナル修養團體
 ノ必要ナル所以ヲ説キ更ニ其後屢々部員
 ヲシテ村有志ヲ指導セシメタル結果昭和八
 年中青年訓練所三個(在来一個ヲ四個トス)ノ
 新設及村内國防婦人會ヲ設立シ主義者ノ
 跡ヲ絶シ至レリ
 八重山郡ニ於テハ恰モ義勇隊ノ編成ナル

ルヲ以テ同隊ノ趣旨ニ基キ左傾主義ニ對スル
 徹底的断歴ヲ加ヘタル爲メ表面ニ立テテ
 活動セル輩ハ島内ニ一ニルヲ得ス其他ハ悉
 ヲ轉向シテ全部解消スルニ至レリ
 四 自治ニ關スル誤ル諸問題解決

國頭郡羽地村ハ大宜味村ニ隣シ自治放棄ノミ、
 經過セシメンカ左傾主義者ニ乘セラハ恐大ナ
 ルヲ以テ簡閱矣呼ノ際村民多數ノ集合
 セル席上ニ於テ自治放棄ハ兵事業務ニ多大
 障礙ヲ來スヲ以テ永ク放置スルハ軍部當局
 者トシテ許容シ得サル所必ス断乎タル統治
 手段ヲ要求スルコトナルヘク斯クテハ村トシテ
 甚ク不利ナル結果トナルノミナラス療養所問題

ニ關シテモ林ノ主張ヲ貫徹スル為メニハ林民一
 致ノ意志表示機關ヲ有スルニアラサレハ實
 現困難ナル所以ヲ説キ且ツ更ニ林有志ヲ
 會合右主旨ニ關シ懇談シ氣運ヲ醸製セ
 シメタルカ間モナク自治ヲ恢復シ産業教育
 等ニ勵ムニ至レリ
 其他ノ地方於テハ機會アル毎ニ國防宣傳ト
 共ニ國難打開ノ途ハ國民ノ一致共同目標ニ伺ヒ
 努力カスルノ外ナキ所以及政黨鬭爭ノ醜事
 實並ニ縣下黑白鬭爭ノ實情ヲ暴露シ百害
 アリテ一利ナキヲ知ラシメ所謂政客等カ如何
 言行不一致民ヲ愚ニシテ不正ノ私利ヲ獲得
 シアルカ及此等ヲ排撃スルニアラサレハ到底縣下

五 加特赦問題ノ對應策

現在ノ窮狀ヲ脱シ得ヘカラスニテ之ニ當ルモノ
 ハ未タ黑白ノ惡癖ヲ有セサル青壯年ノ團結
 奮起ニヨル外手段ナキヲ理解セシムルコトニ努
 タル結果徐々ナカラ逐次黑白解消ニ伺ヒツ、ア
 ルモ習癖ノ久シキ容易ニ之ヲ一掃スルニ至ラス
 國防義勇軍ノ編成等他ノ手段ヲ講スルノ
 要アルヲ認メ準備工作ノ歩ヲ進メツ、アリ
 加特赦問題ノ對應策
 隣島大島ニ於ケル加特赦ノ非國家的暗中
 飛躍ハ周知ノ事實ニシテ本縣下ニ於テモ
 二三年來外人互教師ト稱スル米軍將校
 動物學者ト自稱スル不審ノ外人往來月ト
 共ニ敏系ノ或ハ海岸ノ踏査港灣ノ測量等暗カ

裏ニ活躍シアルヲ探知シ在郷軍人ニ命ニテ明々
 地ニ之ヲ尾行セシメテ妨害ノ手段トセリ一方
 加特ハ中等學校生ノ引入ニ努メ其他第一
 中學校ノ教頭某ハ自ラ宜教師トシテ教會堂
 ノ建設ニ盡カシ(加特外ノ某教)且ツ其地位ヲ利
 用シテ公然生徒ヲ入信セシムルニ至ルヲ以テ當
 初暗々裡ニ其不條理ナルヲ學校職員集合
 懇談ノ席上ニ於テ陳述又省ヲ促セルモ其効ナ
 カリシヲ以テ特ニ講演ニ於テ謀者ノ間接手段
 ヲ暴露シ思慮熟セサル青年ハ不知不知ノ
 間ニ彼等ノ乘スル處トナリ賣國行為ニ追隨
 ツル恐大ニシテ此危險ノ公算多キ途ニ生徒ヲ
 引入ルハ非國民的行為ナルヲ痛論正面ヨリ

排斥セル結果遂ニ職ニ止マルコトヲ得サルニ至
 リ又八年中先島方面ニ加特經營ノ中等學校
 設立ノ擧アルヲ聞知セリ當時八重山ニ實業
 學校宮古ニハ女學校ノ設立ハ地方ノ熱望シア
 ナルヲ以テ危險ノ情況ヲ顧慮シ支廳及聯合分
 會長ニ内報シテ之カ排斥ノ準備ヲナサシムル一方
 新聞ヲシテ大島實情ヲ報道シテ警告ヲ與ヘシ
 メタリ

其三、實質的防備ノ現狀

概説ニ於テ既ニ述ヘタル如ク縣内民間ニハ防備
 ニ充當シ得ヘキ兵器ナク民情以上ノ如クナルヲ以テ
 僅カニ中等學校教練用ノ銃器少數ト八重山ニ裝
 備ナキ義勇隊ヲ有スルニ過キ今動員ニ當リ使

用セラルヘキ銃器ヲ併セ實質的ニ本縣防備ニ當
テ得ヘキモノヲ總括スルハ左表ノ如シ^但動員ニヨル編成
部隊ハ之ヲ畧ス

防備ニ關スル施設現狀ト所要トノ比較表

(現呈別送)

第四對策私案

以上各節ニ於テ陳述セル如ク本縣下ノ防備ハ極メ
テ不備ニシテ一旦緩急アル場合ニハ直ニ各地トノ
運輸交通杜絶スルノ公算極メテ大ナリ故ニ平時ヨ
リ防備施設ヲ完備シアルヲ絶對ニ必要トス以下
之ニ關スル私案ヲ記シテ研究ノ端緒トシ大方ノ御
敘示ト御指導御援助ヲ乞ハントス

其一思想軍事警察ノ確立掌握

本縣警察界ハ明治時代ニ於テハ多ク他府縣
出身者ニヨリテ編成セラレ威信能ク行ハレタルモ民
度ノ進歩ヲ圖ラスニテ實施セラレタル自治制度ハ
縣民ニ無謀ナル自負心ヲ起サシメ歴史的ニ抱
懷セル猜疑心ト相俟ツテ著シク排他的トナリ

縣統治者又縣民ニ迎合シテ苟安ヲ事トシタル結果警察官ノ殆ント全部ハ本縣出身者ト變シ爲メ警察官ノ威信地ニ隨テテ大事件ニ於テハ上述ノ如ク手ヲ下シ得サルノミナラス地方青年ノ風儀取締ノ如キサヘモ其反對ニ會ヘハ斷行シ得サル狀態ニシテ黃白ノ動ク所庶民ニ先ンシテ腐敗スルモノ多ク現狀ナルヲ以テ到底嚴正ナル警察權ノ發動ヲ望ムヘカラス況ンヤ軍事警察思想警察ノ如キ縣民同様國家的思想サヘモ確乎タル根底ナキ彼等ニ行ハレ得ヘクモアラスニテ憲兵ノ配置ハ極メテ必要ニシテ急務ナリ

軍務遂行ニ伴フ軍威信ノ確保ノ爲ニハ特ニ然リ

其二 國防思想普及徹底

皇國道德ノ根元タル家族制度ハ型式ニ於テ敢テ廢レタル所ナキモ實質ニ於テハ著シク壞滅ニ赴キツ、アルハ兵役關係ニ於テ家族又ハ親族ノ縣内ニ居住スルモノニシテ所在不明トナル者ノ數他府縣ニ數十倍セル又男子ノ人身賣買公行シ見子等又全ク望郷ノ念ナキニ見ルモ明ナリ如ク之徹底的ノ個人主義ニ墮落シ犧牲的精神ニ欠如セル莫ヨリ推シ一般的手段ニテ刻下ノ危機ニ對應スルコト困難ナルヘキヲ以テ在來行ヒ來ル主義ニ從ヒ國家觀念國防思想ノ普及ヲ講スル外次節ニ述フルカ如ク在郷軍人青年訓練ヲ主体トシテ之ニ一般青壯年ヲ強制的ニ加

入シテ義勇隊ヲ編成セシメ隊規ニヨリテ國防的
 實際準備ヲ備ヘ形体ヨリ精神ニ及ホシ犧牲的
 觀念ヲ注入スル如ク指道ヲセントス
 其三義勇隊ノ編成(附圖第二參照)

現下國際情勢ニ於テ本縣ノ地理的位置カ自力
 ニ依ル郷土防衛ノ極メテ必要ナル所以ハ幾回トナ
 ク縣下到ル所強調普及セル所ニシテ其必要ハ
 之ヲ痛感セル者少ナカラサルモ其實現セルハ八重
 山ノミニシテ國頭宮古方面ニ於テハ氣運稍動キ
 ツ、アルモ未タ實現ニ至ラス其他ノ地方ニ於テハ唯形
 勢ヲ觀望シアル状態ナリ、必要ヲ通感シテ之ヲ實
 現ニ至ラサル原因種々アルヘシト雖モ主ナル原因ハ
 然トシテ先頭ニ立チ之カ實現ニ當ル志士アラサルニ

因ルモノナルコトハ爾他ノ諸事業特ニ獻品問題ニ
 徴スルモ明ニシテ他ノ方面ヨリ之ヲ強制スルトキハ
 其實現意外ニ容易ナルヘキ判決ニ到達セルヲ
 以テ昭和九年二月三日支部ニ於テ分會長以上ノ
 役員總會ノ際議題トシテ研究シ其實現ヲ
 決議シ直ニ實行ニ着手スルコト、セリ而シテ
 中ニハ義勇隊ノ編成成ルモ其訓練ハ兵器ノ皆
 無ニヨリ實現不可能ナリト、意見ヲ有スルモノ
 アリシモ義勇隊ノ任務タルヤ必シモ外敵ニ對
 スル防備ノミニアラス輿論ノ統一、天災地変ニ對ス
 ル老幼婦女子ノ保護、災害ノ防止等其主ナルモノ
 ニシテ戦技ノ訓練ハ且ク購入スヘキ兵器ニヨリ實
 施可能トナスヘク盡カスヘキヲ以テセリ、察スルニ

自カニヨリ郷土防衛ノ極メテ必要ナルハ異論ナ
 キモ防衛示兵器ナクシテハ其實際的威カヲ有
 セストノ危惧ノ念ヲ有スルコト明ニシテ前年八
 重山義勇隊編成ニ際シテモ熱烈ニ兵器購入等ニ
 關スル要求アリシニ照シテ明瞭ニシテ義勇隊ノ
 編成ト武装ノ整備トニハ離ルヘカラサル緊密ナ
 ル關係アルヲ察スヘク此事ニ就テハ以下逐次ニ
 詳説スヘシ

一 主旨
 世界政局ノ動キト変局ニ處スル帝國ノ現状ニ
 無關心ナル一般民衆モ國防思想ノ普及徹底
 ニ伴ヒ近時著シク沖繩ノ現状ニ關シ考慮ヲ廻
 ラスモノヲ增加シ有識者間ニハ郷土防衛ニ關スル

研究ヲ進メツ、アルモ本夕百ヲ立テ實際運
 動ニ乘出スモノヲ是ス然共支部ニ於テハ既ニ之
 カ實際組織ニ着手セルヲ以テ國防的觀念ハ
 躍進的ニ進歩スルヲ期スヘクシテ義勇隊編
 成ト共ニ最も重要トスル莫ハ自カ護郷ノ實
 カアリトノ信念ニ到達セルコト、ス之カ為
 天災地変ニ際シテハ團隊的訓練ノミニヨリ充
 分ナリト雖モ外敵ニ對シテハ直子ニ戦闘カヲ必
 要トス是レ各所ニ於テ武装ノ整備及訓練用
 兵器ノ必要ヲ叫ハル、所以ニシテ先般八重山郡
 義勇隊編成セラレ、ニ當リ同隊ニ兵器ヲ購
 入シテ訓練ヲ施サントシ小官モ亦之ヲ機トシテ
 他地方一齊ニ義勇隊ヲ編成セシメンコトヲ希望

之カ爲、其編成ヲ促進シ併セテ國防ノ實力
 ヲ保有セシメンク爲メ當局ニ向ヒ拵下銃一五〇〇
 ノ無料交附ヲ懇願セルモ容レラリス次テ國防
 献金ニヨリ有料拵下ヲ願出タルモ拵下銃ノ完
 品ナキ故ヲ以テ聽カリス已ラテ得ス急速ニ戰鬪
 カヲ増加スル爲メ上記自動火器等ノ購入獻納
 及同火器縣内保管ノ擧手ニ出ツルニ至リ悉シ
 共以上ノ火器ノミヲ以テテハ一般義勇隊ノ教育
 ニヨリ自力郷土防衛ノ實ヲ擧手クハ能ハサルヲ
 以テ當局特別ノ診議ニ依リ火器ヲ備ヘンニトテ
 希望スルモ之ニ要スル金額ヲ分直チニ地方ニ負担
 セシムルコトハ成效ノ望薄キヲ以テ司令官ノ目下
 保管シアル國防研究會ノ資金ヲ以テ訓練用

兵器ヲ購入シテ義勇隊編成ノ終ルモノニ獎
 勵トシテ若干便宜ノ交附シテ他地方ノ編成ヲ
 促進シ以テ國防熱ヲ昂メ氣勢ヲ擧ケ次テ
 好機ニ投シ銃器購入ノ費ヲ公募シ以テ義勇
 隊ノ完成ヲ期シ自力郷土防衛ノ實ヲ全フセン
 トス

二 國頭方面

本島ノ主要地那覇中城湾地方ト遠ク隔絶
 シ交通亦便ナラス別個ノ地方トシテ防衛ノ
 準備ヲ進ムル必要アリ國頭其自体ニ於テ
 モ統一セル編成及訓練ハ其必要少ナキノミ
 ナラス其實現不便ナルヲ以テ之ヲ數地區ニ分ツ
 ヲ必要トス一般ニ各地各部落内ニ於テハ氣運